

増ニホ 2016

議論(2日目)

2016.7.6

# ☆今後の運用スキーム

運用変化のステップ

AY(2016) ① KWFC

AY(2017) ② +Tomo-ePM

AY(2018) ③ Tomo-e

AY(2019) ④

AY(2020) ⑤

〈研究〉  
general purpose  
共同利用  
↓  
〈教育〉  
本学  
実習

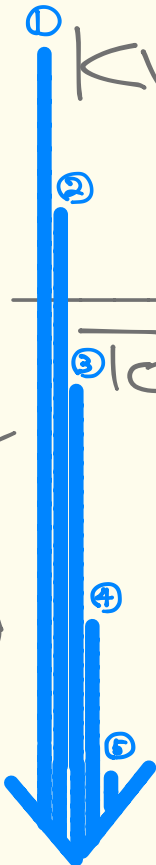
共同研究  
↓  
大学  
実習

共同研究  
↓  
部分  
実習  
↓  
大学  
実習

No filter  
重力波 Fup  
超新星 S

filter化  
超新星 S  
各種サーベイ

共有?



☆今後の観測所運用 ~制約とホークニト~

## ◎中小望遠鏡施設の意味

- 先鋭的のプロジェクト (ハイリスク・ハイリターン)
- テストベッド [プロジェクト, 装置, 研究者養成]

## ◎軍営資金難 ...どこも大変...

- 軍用業務の整理/変更 [今年度から毎年]
- 観測所は望遠鏡・装置の軍用に特化
  - 数年後にはほぼ自動運転?
- 研究対象の特化 [家さんコメントの通り]
  - ? 実在天体中心 → "ただし" サイエンスは流動することに注意

# ④ データ解析の本質的進化の重要性

— 東大下校として？

→ astrostatics

2016 秋天文学会  
企画セッション  
(植村、池田、本向)  
～ぜひご参加を～

— 解析インフラの整備

CPU & HDD の置き場所 (1F 木土)

→ 観測所に置くしかない？ (酒向)  
[外へのネットワークが早くない]

— 「実験計画書」としての天文応用の重要性  
ぜひ早くばらばら初期段階から相談を  
(池田土)